

■清水浜臣 国学者，歌人。江戸県居派中心。

しみずはまおみ

雨月物語刊・1776＝

道円の子として江戸飯田町で生まれる。

道円は同町に住む医師で俳諧を嗜み，谷口楼川の門に入って俳号を夫葉・水往亭などと称した。この環境下で，浜臣は幼い頃から学問的才能を発揮し，

蝦夷初調査・1785＝ 9歳：

田沼意次失脚1786＝10歳：

寛政改革始・1787＝11歳： 湯島聖堂の入学を許可される。

ヲクサン来日・ 1792＝16歳： 国学者村田春海の門下となり，

松平定信引退1793＝17歳： 上野不忍池畔の茅町に移り， もっぱら国学・和歌を研鑽し，歌文をもって人に教えるようになる。

オランダ 正月・ 1794＝18歳：

写楽・・・・ 1795＝19歳： 狩谷掖斎たちとの交友を深め，「六国史」の研究会を開き，

古事記伝・・・・ 1798＝22歳： 本居宣長の募る「古事記」竟宴歌に応じ，一首を送った。

蝦夷地直轄始1799＝23歳： 天神下に住む経絡医西村玄周の女と結婚，

宣長没・・・・ 1801＝25歳： *賀茂真淵の草稿を遺族から入手したが，師村田春海の編集する「賀茂翁家集」の資料として，この草稿の提出を拒否したため，春海の信頼を失う。この頃から文筆活動が活発となり，

膝栗毛始・・・・ 1802＝26歳： 「字音仮字便覧」刊行，

アメリカ船来航始1803＝27歳：

青洲麻酔手術1805＝29歳： 石川雅望と親交し，雅望の間に浜臣が答えた「清石問答」を出版，

ツバネ船狼藉・ 1807＝31歳： 「筑波子家集」を編み，

間宮海峡発見1808＝32歳： 「朝敵弁」を著わし，

浮世風呂・・・・ 1809＝33歳： 「唐物語提要」

この頃，「宇津保物語考証」，

ゴロブニン拿捕 1811＝35歳： 編「県門遺稿」，

高田屋拿捕・ 1812＝36歳：

浮世床・・・・ 1813＝37歳： 随筆「泊？筆話」

・・・・・・ 1815＝39歳： 編「近葉菅根集」など， *連年にわたって，編集，出版。

妻に先立たれたため，書家三井親和の女を後妻とした。

水野忠成老中1818＝42歳：

・・・・・・ 1820＝44歳： 「旅路のうちぎょ」成る。

蝦夷地直轄終1821＝45歳：

膝栗毛終・・・・ 1822＝46歳： 「拋字造語抄」成る。

シボネ来日・ 1823＝47歳： 長男信臣を失い，

シボネ鳴滝塾1824＝48歳： 没した。

その学問は考証を中心とし，歌文にその力量を発揮した。また旅を好み，伊豆・箱根・常陸・甲斐・信州・京都など各地を旅し，その都度旅日記を著わしている。その門下からは前田夏蔭・岡本保孝・岸本由豆流などが輩出した。ほかに「伊勢物語添註」「うたかたの日記」「甲斐日記」「唐物語提要」「語林類葉」「泊？舎集」「泊？文集」「泊？文藻」「相田日記」「筑波子家集」「山吹日記」「遊京漫録」など多数。